



家庭医療専攻医

**小児科ローテート
到達目標**



一般社団法人
日本プライマリ・ケア連合学会
Japan Primary Care Association

制作：日本プライマリ・ケア連合学会
専攻医部会

研修目標

①全ての専攻医が身につけるべき知識とスキル

- 乳幼児期の成長過程の知識
- 小児科の問診項目、身体診察
- 小児科で処方される頻用薬についての知識
- 予防接種の知識
- 乳幼児健診の知識
- 入院や小児専門医へ紹介するべき症例を判断するための知識
- 小児への採血、点滴
- 一般、救急、慢性疾患のコモンプロブレム(発熱、喘息、熱性けいれんなど)への対応
- 予防接種の実践
- 健診の実践

②小児科診療をより深めたい

専攻医が身につけたい知識とスキル

- 小児蘇生法
- 小児メンタルヘルス
- 抗痙攣薬の使用
- 鎮静剤の使用
- 低リスクの出生直後～早期新生児期の対応(新生児蘇生、バックアップのある病院やグループが前提)
- NICUでの知識、実践

指導医の先生方をお願いしたいこと

- ①は全専攻医が網羅的に身につけて欲しい事項であり、全員に指導をお願いします。
- また、②はあくまで①の知識を持った専攻医が追加して学びたい事項であり、必要に応じて指導をお願いします。

研修する家庭医療専攻医が お役に立てると思われる場面の例

- 一般的な小児科疾患への対応
例) 外来診療や入院診療の一部を負担することが出来る。
- 産婦人科の知識や精神科領域の知識を必要とする母子の健康問題や、両親に対するヘルスマンテナンスの提供。
例) 産褥期の母親の感染症に対する対処、産後うつへのケア。
- 小児を取り巻く様々な問題への対処
例) 小児を取り巻く両親、祖父母などの家族家庭内問題への対処。

将来的に家庭医療専門医が目指していくこと

- 一般的な小児疾患への対応
小児科の先生方がより専門性の高い小児診療に専念することが出来る。
- 地域、コミュニティに基づいた小児科診療
学校医やワクチンプラクティスなど、各地域の特性に合わせた予防医療や健康増進への取り組みに参加出来る。
- 小児在宅診療
在宅診療経験がある医師が多く、小児科で学んだ知識を活かして小児在宅診療に取り組むことが出来る。
- 成人期に達した小児慢性疾患患者への対応
小児、成人の両患者の診療を経験することで、成人期に達した小児慢性疾患患者への診療を行うことが出来る。